

心 理 劇

THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA

第16巻 第1号/平成23年12月1日 Vol.16, No.1, December 2011

巻頭言.....島谷 まき子... 1

特集・シンポジウム<心理劇の活性化に向けて>

講演 心理劇監督論 努力はセンスを超えられるか.....高良 聖... 5

特別寄稿

心理劇:歩いて来て、歩いてゆく道.....台 利夫...11

原著

サイコドラマにおける新たなフェーズとしての「振り返りの時間」

-質的研究法による主観的体験の検討-

草岡 章大 横山 太範 前田 英樹 築田 昌明 野畑 隆子...21

実践報告

「演じること」に焦点化したプレイセラピー

-「半分よい子で半分悪い子」と叫んで飛び込んできた小学生女児の事例-.....牧 裕夫...33

教育実習(養護教諭)履修前の実習生に対するロール・プレイングの導入

-自発性の訓練ならびに役割の実践に基づく分析-.....留目 宏美 廣瀬 清人 西村 正司...47

学生の教職実践力の育成をめざす授業実践

-保育への明確な役割意識の違いに着目して-.....小原 敏郎 義永 睦子 神蔵 幸子...57

書 評

心理療法にみる人間観-フロイト, モレノ, ロジャーズに学ぶ-(台 利夫 著).....川幡 政道...69

情 報

日本集団精神療法学会 28回大会に参加して.....荷軽井 千...73

会 報.....75

日本心理劇学会

JAPAN PSYCHODRAMA ASSOCIATION

THE JAPANESE JOURNAL OF PSYCHODRAMA

Vol.16, No.1 / December 2011

CONTENTS

Remarks

Introductory Remarks.....Makiko Shimatani... 1

Remarks on Special Articles · Lecture

A theory of Psychodrama Director – Can effort exceed sense?.....Kiyoshi Takara... 5

Special Contribution

Psychodrama: My way in the past and the present.....Toshio Utena...11

Articles

“Reflecting time” as a new phase in psychodrama.

– Qualitative data analysis of participants’ subjective experiences –

Akihiro Kusaoka, Motonori Yokoyama, Hideki Maeda, Masaaki Chikuda, Takako Nohata...21

Practice Studies

Play therapy focused on “acting”

– Case of a female elementary school student who ran to a counseling room, complaining, “Half of me is good, but the other half is bad.” –Hiroo Maki...33

Introduction of Moreno’s role-playing for students as a pre-college seminar in educational practice to obtain the school health teacher’s certificate.

– analysis based on the training of spontaneity and role practice –

Hiroimi Todome, Kiyoto Hirose, Masasi Nishimura...47

The psychodrama program to foster the abilities required for preschool teachers

– Focused on definite role-adaptation for preschool education –

Toshio Ohara , Mutsuko Yoshinaga, Sachiko Kanzo...57

Book Review.....69

Information.....73

Announcement.....75

Edited and Published by

Japan Psychodrama Association

(c/o Yokohama City University, Department of Human Sciences, 22-2 Seto, Kanazawa, Yokohama, 236-0027, JAPAN)

President : Kiyoshi Takara (Meiji University)

Editor : Harumi Yoshikawa (Tokyo Kasei Gakuin University)

Editorial Committee : Hiroko Ibaragi (Komazawa University), Masahiro Ito (Niigata University of Health and Welfare), Masamichi Kawahata (Yokohama City University), Yoshie Ogasawara (Psychotherapy Office TMS), Munetsugu Todo (Yamazaki Mental Hospital), Susumu Harizuka (Kyushu University), Yasuko Muto (formerly Kyoritsu Women’s University)

執筆要項

1. 論文の内容は未公開のものに限る。事例提示の場合は、記載する情報は必要最小限とし、プライバシーに十分配慮すること。
2. 論文の長さは、原則として原著・総説・事例研究・実践報告は図、表、写真を含めてA4判(40字×40行)用紙11枚、短報・資料・その他は8枚を上限とする。上限を超えても掲載が認められることがあるが、その場合は原則として超過分の制作費は投稿者の負担とする。
3. 原稿は横書きで、原則として常用漢字・現代かなづかいを用い、数字は算用数字を用いること。図、表、写真は必要最小限にして別紙に書き、本文中にその挿入箇所を明示すること。本文にはページ数をつけること。
4. すべての投稿論文には、表題、著者名、所属機関名、論文の種別、連絡先住所、電話番号、Eメールアドレスを記載し、かつ表題、著者名、所属機関名については英語表記を添え、本文に添付する。原著および事例研究には、英文要約を必須とする。英文要約は100~200語で作成し、5項目以内のキー・ワードをつけること。英文要約およびキー・ワードについては日本語訳を添えること。英文は英語の専門家の校閲を経ていること。
5. 外国人名、地名に原語を用いる以外には、記述中の外国語になるべく訳語をつけること。
6. 引用文献は本文の最後に著者名のアルファベット順に一括して記載し、本文中では、著者名(発行年)で引用すること。
 - a) 文献の記述形式は、雑誌の場合は、著者名、公刊年度(西暦)、論題、誌名、巻(ゴチック)、号、記載頁の順序による。単行本の場合は、著者名、発行年度(西暦)、書名、発行所の順とする。ただし編者と担当執筆者の異なる単行本の場合は、該当執筆者名を筆頭にあげ、以下発行年度、編者名、書名、発行所の順とする。
 - b) 同一著者で2種以上の文献がある場合には発行年度順とし、さらに同年度に同一人の2種以上の文献がある場合には1990a、1990bのように区別して記載すること。
7. 校正は、初校を著者、再校以降は編集委員会で行う。
8. 投稿論文については、執筆者に別刷り20部を贈呈する。それ以上は執筆者の負担とする。
9. 本誌に掲載された論文の原稿は、原則として返還しない。
10. 投稿に際しては、投稿原稿とは別に、著者名、所属機関名、謝辞を削除したコピー2部を添え、書留郵便(エクスパック可)にて送付すること。郵送とは別に、投稿原稿をEメールの添付ファイルとして送ること。

編集委員

委員長：吉川 晴美

委員：伊東 正裕 茨木 博子 小笠原 美江 川幡 政道 藤堂 宗継
針塚 進 武藤 安子

編集規定

1. 本誌は日本心理劇学会の機関誌として年1巻発行する。
2. 本誌は、原則として本学会会員の心理劇に関する論文の発表にあてる。
ただし、非会員からの投稿論文で本学会に寄与するものは、掲載が認められることもある。
3. 本誌には、特集、原著、総説、事例研究、実践報告、短報、資料のほか書評、海外文献紹介、情報、会報などの欄をもうける。
4. 特集、書評欄は、原則として編集委員会の指定した依頼原稿によって構成する。
5. 原著論文は、心理劇あるいはその関連領域における未公刊の独自性ある論文で、学術的考察のなされているものとする。
6. 総説は、心理劇あるいはその関連領域における特定の主題についての学問的動向を見渡し、著者独自の論考がなされている論文とする。
7. 事例研究は、心理劇あるいはその関連領域の臨床・実践活動における事例について考察のなされている論文とする。
8. 実践報告は、心理劇あるいはその関連領域の臨床・実践活動で得た知識、経験、成果などを報告する論文とする。
9. 短報は、心理劇あるいはその関連領域における萌芽の研究で、今後発展が期待できる研究を手短にまとめたものとする。
10. 資料は、心理劇あるいはその関連領域における掲載する意義があると考えられる実践、調査、事例、理論等に関するレポートとする。
11. その他必要に応じ、編集委員会での検討により論文の種類を新たに設定することがある。
12. 投稿論文は編集委員会によって審査され、その掲載の可否が決定される。
なお、編集委員会は、会員もしくは会員外に審査協力を依頼することがある。
13. 本誌の編集は、編集委員会の責任のもとに行われる。
14. 原稿の印刷に特に費用を要するものは、執筆者の負担とする。
15. 本誌に掲載された論文を無断で複製および転載することを禁ずる。

心 理 劇 第 16 卷 第 1 号 編 集 日本心理劇学会編集委員会

2011 (平成 23) 年 12 月 1 日 発行 発 行 日本心理劇学会

〒 236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2

横浜市立大学臨床心理学研究室 気付

FAX 044-511-5261

製作 社団法人やどかりの里

やどかり印刷

〒 337-0026 さいたま市見沼区染谷 1177-4
